

令和8年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【柏崎小学校】

学力向上
アクションマップ

①	今年度の目標と学力向上策
重点的に育成する 資質・能力	(1)「読むこと」「書くこと」「計算」の基礎的、基本的なことができる資質・能力 (2)自らの学びを調整することができる資質・能力
↓	
実施する学力向上策 【時期・頻度】	(1)児童一人ひとりの実態を把握し、児童一人ひとりに合った学習方法を支援する授業の実施と、学習内容の定着を図るスキルタイムの実施。【週1回以上】 (2)自分に合った学習目標を設定する時間、自分に合った学習方法を適切に選択する時間、授業内容と自分の達成度を客観的に振り返る時間の設定。【各単元の中で3回以上(導入、中間、終末)】

⑤	年度末評価	
学力向上策の 実施状況	評価(※)	①結果分析(管理職・学年主任等) ②詳細分析(学年・教科担当) ③分析共有(児童生徒の実態把握)
↓		
今年度の成果と 次年度の課題		

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

④	さいたま市学習状況調査結果の分析
特徴的な結果	
↓	
結果から考えられる 児童生徒の実態	①学校全体での取組 ②単元テスト・定期テスト 等の分析・活用 ③中間評価を経ての取組 ④調査結果を活用した授業

②	全国学力・学習状況調査結果の分析
特徴的な結果	・国語の「話すこと・聞くこと」、算数の「測定」に関する問題では、平均正答率が高く、全国の平均正答率を上回った。一方で、国語の「書くこと」、算数の「データの活用」に関する問題では、平均正答率が低く、特に国語の「引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができかどうかをみる」問題に課題がみられた。また、国語、算数ともに、記述式の問題形式であると平均正答率が低い傾向にあった。 ・自らの学びを調整することができる資質・能力と関連する児童質問「分らないことやくわしく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか」について、肯定的な回答が9割以上であった。
↓	
結果から考えられる 児童生徒の実態	・今年度の目標に設定した基礎的、基本的なことができる資質・能力の中で、特に「書くこと」に引き続き課題がみられる。 ・9割以上の児童が、主体的に自らの学びを調整することができている。

③		中間評価	
学力向上策の実施状況	評価(※)	学力向上策(1)・(2)ともに実施することができている。児童が自ら設定した学習目標や、学習方法、振り返りの内容で、適切かどうかを確かめるように指導していく。	
	B		
↓			
学力向上策の見直し	(変更なし)		

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)